

## 【優秀賞】

団体名	京都市スチューデントシティ・ファイナンスパーク 運営推進委員会
活動の内容（概要）	<p>京都市スチューデントシティ・ファイナンスパーク学習は、市立小・中学校の児童・生徒が学校教育活動の一環として、京都まなびの街生き方探究館内に再現した「街」で、職業体験や生活設計体験を通じて社会の働きや経済の仕組み等を学び、将来自分らしい生き方を実現する力を育成するもので、本市「生き方探究（キャリア）教育」の重要な柱となっている。</p> <p>本学習は、事業立上げから現在に至るまで一貫して、本委員会から出店協賛企業の選定、学習プログラムの策定、ボランティア・教職員研修の実施方法及び事業評価等に関する指導助言や検証を受け、学習プログラムとしての改善・発展を続けており、本学習に対する本委員会の貢献度は極めて高い。</p>

### 受賞理由

- ・教育関係者、産業界等幅広い関係機関が協力し、平成 18 年度から継続的に実施されている点、ボランティアの参加者も多く地域全体で支援がなされている点が素晴らしい。
- ・伝統文化や伝統産業等の視点を盛り込んだ独自のプログラムが開発されており、全市立小学校、市立中学校 55 校で実施している点が評価できる。
- ・キャリア教育を十分に理解し、実効性のある取組みとなる様、よく計画されている。そのことが、多くの協力者を得られ、なお方向性の統一を可能としていると思われる。
- ・ジュニア・アチーブメントの取組に京都ならではの視点を盛り込んだスチューデントシティ・ファイナンスパーク事業は、すべての市立小・中学校がその教育活動の一環として取り組んでいること、関連する市の官民が一体となって取り組んでいること、その学習が「市民ボランティア」などのボランティアに支えられていることを高く評価したい。

### 連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

京都市教育委員会、京都市小学校長会、京都市立中学校長会

【行政】

京都市産業観光局

【地域・社会】

京都市小学校 P T A 連絡協議会、京都市中学校 P T A 連絡協議会、

京都市総合支援学校 P T A 連絡協議会

【産業界】

京都商工会議所、一般社団法人京都経済同友会、公益社団法人京都工業会、京都経営者協会、公益財団法人京都高度技術研究所、株式会社西利、NHK 京都放送局、株式会社京都放送、日本経済新聞社京都支社、株式会社京都新聞社、日本教育新聞社、公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本

## **活動開始の経緯**

平成17年10月に京都市教育委員会がスチューデントシティ・ファイナンスパークの事業実施を決定したことを受けて、PTAの代表、京都経済界、報道関係者、NPO法人、及び学識経験者が学校、教育委員会とともに参画し、平成18年3月に設置された。出店協賛企業の選定、学習プログラムの策定、ボランティア・教職員研修の実施方法及び事業評価等に関する指導助言や検証を継続的にを行い、現在に至る。

## **「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など**

本委員会は、教育関係者、行政、PTA、京都経済界、マスコミ、NPO法人、学識経験者等、本市の生き方探究教育（キャリア教育）を産学公連携・市民ぐるみ・地域ぐるみで進めるうえで必要な幅広い関係機関から構成されており、それぞれの立場から京都市スチューデントシティ・ファイナンスパーク学習の改善・発展に資する意見をいただいている。

## **「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など**

- ①原則として年2回（10月と3月）、委員会が開催されており、年度1回目の委員会で上半期実施状況の総括と下半期の取組について、2回目の委員会で年間を通した実施状況の総括と次年度の取組計画について審議されている。（平成18年3月からこの間23回開催）
- ②本委員会では、京都市スチューデントシティ・ファイナンスパーク学習に関する児童・教員・保護者・ボランティアからの各アンケートの分析結果を基に、子どもたち一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要となる力を育成する「生き方探究（キャリア）教育」の視点から学習プログラムの評価・分析を行い、次年度における更なる改善・充実に向けた具体的な取組方針を策定している。

## **「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など**

- ①本学習を学校教育活動の一環として実施するうえで、本委員会のメンバーに小学校長会長、中学校長会長のほか、小・中・総合支援学校のPTA役員にも参画いただき、学校教育現場の実態やニーズを踏まえた議論をいただいている。
- ②学習プログラムの策定に当たっては、京都市ならではの伝統文化や伝統産業、環境保全等の視点を盛り込んだ独自のプログラム開発を行った。
- ③生き方探究館で行った体験学習を、各学校において、日々のキャリア教育の取組や教科学習に繋げていく必要があることを、年度当初に全市校園長会において教育長から前校長に対して示す「学校教育の重点」に明記し、周知徹底を図るとともに、学校説明会や学校訪問などを通じて各校に指導・助言を行っている。

## **「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など**

- ①本学習の実施に当たっては、多数の地域企業に協賛いただき、児童・生徒の学習の「場」として、実際の店舗や事務所と同様のブースを提供いただくほか、学習時に児童が売買・契約行為を行ううえで必要な商品・ノベルティを無償で提供いただいている。
- ②また、学習においては、協賛企業から派遣いただく「企業ボランティア」、公募による「市民ボランティア」、学習実施校の児童・生徒の保護者等の「学校ボランティア」が学校の教員に代わり児童・生徒に対する指導・助言及び支援を担っている。
- ③ボランティアの登録人数及び活動人数は年々着実に増加しており、平成25年度は延べ4,369名の方にボランティアとして学習に参加いただいた。

## 活動実績

- 1 京都市スチューデントシティ・ファイナンスパーク運営推進委員会開催回数  
平成18年3月から平成26年10月までに計23回開催
- 2 京都市スチューデントシティ・ファイナンスパークで学んだ児童・生徒数  
延べ1,612校, 116,078人(平成19年1月から26年12月末までの累計)  
(内訳) スチューデントシティ学習: 延べ1,284校, 81,100人  
ファイナンスパーク学習: 延べ328校, 34,978人
- 3 平成26年度の学習実施予定
  - ・スチューデントシティ学習: 全市立小学校 163校, 10,542人
  - ・ファイナンスパーク学習: 市立中学校・総合支援学校 55校, 6,609人



スチューデントシティ学習の様子



ファイナンスパーク学習の様子

## 学校現場の評価・感想・コメント

学習実施後に行う教員向けのアンケートにおいて、小学校及び中学校の教員双方から、本学習に対する肯定的な評価(4段階評価で肯定的な上位2段階の評価の割合)が90%以上に達するなど高い評価を受けている。

○教員向けアンケート結果の一例

- ・スチューデントシティ学習:「この学習は、子どもたちがこれから生きていくときに、いろいろな場面で役に立つと思いますか。」→「大変そう思う」と「そう思う」の計が95%
- ・ファイナンスパーク学習:「この学習は、生徒の将来に役立つと思いますか。」→「大変そう思う」と「そう思う」の計が99%

○教員向けアンケートへの自由記述例

- ・スチューデントシティ学習:「日頃、学校で言われている「あいさつ」、「時間を守ること」、「人と協力すること」が実社会でも大切だということを体験学習を通して感じ取れた児童が多かった。また、働くことの楽しさだけでなく、厳しさ、難しさなどにも気付くことができ、とても充実した学習となり、子どもたちもやり遂げた達成感と自信を持つことができた。」
- ・ファイナンスパーク学習:「親の立場で1箇月の生活設計を体験したことで、保護者への感謝の気持ちを話す生徒が多かったように思う。また、終わりの会での「学校での学習が将来の仕事や生活につながっている。」という話についても、生徒は実感できたと思う。」

#### **直接連携・協働していない関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど**

京都まなびの街生き方探究館は、毎年、全国の自治体から多くの議員・職員に視察にお越しいただいている。「生き方探究（キャリア）教育」を京都市スチューデントシティ・ファイナンスパーク学習を核の一つとして実践しているところを御覧いただき、「自らの自治体でもこのような施設を整備して取り組みたいと考えるが、これほど多くの企業・市民の協力を得るのは実際のところ難しい。産学公連携、市民ぐるみ・地域ぐるみが様々なところで根付いている京都市ならではないか。」との御感想を頂戴している。